



その① * さとうひろこ *

——春休み——

まだ見ぬ新入の子どもたちを想像しながら、名簿を書く。きれいに掃除をした靴箱・コートかけ・引き出し・かばんを置く棚に、ひらがなで名前を入れる。丁寧に心をこめて一人ひとりの名前を書き入れていくこの作業は、面倒だが楽しいものだ。どんな人かと想像をめぐらし、出会ったときに、みごとの中していたりすると、なおのこと嬉しい。

私たちの園では子どもたちは名札をつけない。以前、別の幼稚園の入園式で、互いの名札を手に取り、書かれた字を読みあつて、「ひ・ろ・しくん、いっしょにあそぼ」「うん、ま・さ・おくん、いいよ」と挨拶を交わす三歳児を見て驚いた。三歳にして字が読

めることもさることながら、サラリーマンの名刺交換のようなそのやりとりを不思議に思った。

名札がなくても、子どもたちは遊びの中で、お互いにちゃんと誰だか分かっていく。

「おすなば、どろんこ、だあいすきな、さとみちゃん」「いつきくんは、のぞみみたいにはしるのがはやいね」
自分にとって大切な情報を、子どもたちは実にすばやく取り入れる。彼らが、自分にとって必要な仲間として、ともに暮らすともだちの名前を覚えてくれるように、私たちは丁寧に心をこめて、子どもたち一人ひとりの名を呼び、描かれた絵の一枚一枚に名前を書いていこう。名札のない関わりの中で、ともだちの名前を覚えるということは、その人の存在を受けいれることができた証であるのだから。

(幼稚園勤務)

